



公明党

田畠たき子



がん検診の受診率向上

12



問 乳がんは早期発見で治りやすいと言われており、若い世代で発症することもある。乳がん検診の対象年齢前である35歳を検診対象とすることはできないか伺う。

答 保健医療部長 乳がん検診は、国の指針に基づき、死亡率減少に科学的根拠のあるマンモグラフィー検査を40歳以上の女性に対して実施している。39歳以下の女性は、乳腺濃度が濃いため有効性が低いことなどから、推奨されていない状況である。まずは、乳房を意識した生活習慣であるプレスト・アウェアネスの周知啓発を図るとともに、35歳の人への検診については、検査によるメリット、デメリットなど、調査研究していきたい。

問 がん検診の受診率向上



公明党

小ノ澤哲也



ワクチンの助成額拡充を！

14



問 帯状疱疹の不活化ワクチンの助成額は極めて低い。市が受け取る約3割の普通交付税額程度（約6600円）まで引き上げるべきと思うが、市の考えは？

答 保健医療部長 他市の接種実績の分析から、帯状疱疹ワクチンの接種は、自己負担額の高低が一定程度影響していると考えている。特に高額のワクチンは、現在、本市が公費負担している手技料の他、ワクチンにかかる費用の一部を助成することについて、国の地方財政措置の考え方、市民からの要望、本市の財政状況などから、総合的に検討していきたいと考えている。

問 ワクチン接種の諸課題



川越未来の会 加藤みなこ



薬物乱用防止の教育的支援

16



問 オーバードーズを未然に防ぐためには心の教育が重要であると考えるが、教育長の考えを伺う。

答 教育長 オーバードーズの未然防止に向けて重要なことは、こどもたちに自分自身の心の危機に気付く力と誰かに相談する力を身に付けさせることであり、その下地となるのが、生命の尊重に関する教育や心身の健康の保持増進に関する教育、温かい人間関係を築く教育などの心の教育である。これらを生徒指導・教育相談・キャリア教育・健康教育・道徳教育・特別支援教育等を横断する重要課題として位置付け、学校全体で取り組みを進めることが重要であると考えている。

問 薬物乱用増加

問 旗掲揚、国歌斉唱



公明党

桐野忠



防災意識の高揚に向けて

13

問 住民一人一人の防災意識を高めることが地域防災力の向上につながると考えるが、防災意識の高揚に向けた市としての取り組みについて伺いたい。

答 危機管理監 消防、警察、自衛隊などの防災関係機関や災害時応援協定締結企業、自治会、自主防災組織と協力した総合防災訓練の実施は、自助・共助・公助の連携強化や防災意識の高揚につながると認識している。他自治体を参考にしながら、こどもから高齢者まで楽しみながら防災・減災の重要性を認識できる防災フェスタや防災訓練の実施について、検討していきたいと考えている。

問 防災・減災の取組



川越志政会

糸 真美子



横断歩道の早急な修繕を

15

問 市内各所で横断歩道の白線が消えるなど劣化が見られる。管轄は埼玉県警察だが、要望に対し修繕が追い付いていない。対応を迅速化させる県との連携強化策を伺う。

答 市民部長 横断歩道などの修繕は、県内各地の警察署から埼玉県警察本部に要望が集約され、予算や優先度などにより実施時期が判断されると考えられるため、直接的に修繕を迅速化するのは難しいと考えている。

しかし、安全上の観点から、早期の修繕が望まれるため、緊急性が高いと考えられるものについては、より迅速な修繕を川越警察署に促していきたい。

問 学校清掃

問 学校給食費無償化の今後

問 横断歩道の補修



無会派

村山博紀



安定的な下水道事業を

17

問 寺尾地区で汚水幹線布設替事業が行われているが、市内の下水管の維持管理は重要だ。使用料改定も必要だと考えるが、下水道事業を安定的に継続させる取り組みは。

答 上下水道事業管理者 下水道事業を将来にわたり安定的に継続するために、川越市上下水道ビジョンや川越市上下水道事業経営戦略に基づき、更新費用の平準化を図りながら、計画的な施設の更新や適切な維持管理を実施していきたい。また、官民連携やDXの活用などの取り組みを推進することにより、業務の効率化に努めたい。

問 下水管の老朽化対策